

町田市木曾山崎団地地区まちづくり構想（素案）

市民意見募集実施結果

2026年2月

町田市都市づくり部都市政策課

## 町田市木曽山崎団地地区まちづくり構想（素案）に関する 市民意見募集実施結果

2025年12月に公表した町田市木曽山崎団地地区まちづくり構想（素案）について、市民の皆様の意見を募集しました。

### 1 意見の募集期間

2025年12月15日（月）から2026年1月13日（火）まで

### 2 意見募集の方法

◆以下の施設での資料閲覧・配布

広聴課・法務課情報公開係（市庁舎1階）、都市政策課（同8階）、  
各市民センター、木曽山崎連絡所、各駅前連絡所（町田・鶴川・玉川学園）、  
男女平等推進センター（市民フォーラム3階）、各市立図書館、町田市民文学館

◆町田市ホームページに資料を掲載

◆「広報まちだ」2025年12月15日号にご意見募集記事を掲載

### 3 寄せられたご意見の件数・内訳

Webフォーム、電子メール、郵送を通じて、計15件のご意見をいただきました。  
ご意見の項目別の内訳は以下のとおりです。

#### 【項目別ご意見件数】

ご意見の項目	ご意見数
まちづくりに関するご意見	12件
モノレールに関するご意見	3件

ご意見の概要とそれに対する市の考え方は、次ページ以降をご覧ください。なお、取りま  
とめの都合上、いただいたご意見は項目ごとに整理し、要約して掲載しています。

#### 4 ご意見の概要と市の考え方

##### まちづくりに関するご意見

No.	ご意見の概要	市の考え方
1	税収増加のため、ファミリー層の移住・永住を促進する開発計画立案が望ましい。	今後、団地事業者や地元及び周辺町内会自治会等と協力して、
2	目標とする街として流山市や姫路市のように、都市近郊住宅エリアとしてのファミリー層の魅力を拡充するモデルケースを設定し、具体的な施策方針案を記載いただきたい。	子育て支援策の拡充や居住環境の改善等の具体的な取組を検討してまいります。
3	子どもセンターまあち等の市運営の子供向け無料施設はある程度充実しているが、民間運営のキッズパークや公園施設などは数少なく、市外で需要を満たしている家庭が多いと認識している。木曾山崎団地内に施設を誘致し、ファミリー層への魅力を向上頂きたい。	
4	モノレール開通に合わせ、商業施設一体型住宅を中心とした街づくりを推進し、日常生活に必要なものを団地周辺で完結可能なまちづくりを実施いただきたい。	今後、団地事業者と協力して、多様なニーズに対応した施設の整備など居住環境の改善や魅力的な店舗や利便施設の導入等の具体的な取組を検討してまいります。
5	モノレール開通前に高齢化や単身者居住の状況の改善を視野に入れ、工程作成し開発計画を進めて頂きたい。	今後、団地事業者と協力して、多様なニーズに対応した施設の整備など居住環境の改善に関する
6	経済の発展を求めるインフラ開発などは、ある程度必要だとは理解できる。しかし人口減少と高齢化が避けられない社会情勢では、住民の生活環境を改善することがより優先されるべきでないか。	具体的な取組を検討してまいります。
7	開発計画において、インフレ環境を考慮し、意思決定の遅延を防ぎ、計画的な方針立案と市民意見のすり合わせを進めていただきたい。	今後、団地事業者や地元及び周辺町内会自治会等と協力して、まちづくりを段階的に進めてまいります。

8	山崎団地単独で各課題を解決するのではなく、他の団地エリアと役割分散・連携することで課題解決の道筋をたてていただきたい。	今後のまちづくりを進める上で、団地事業者などと連携しながら検討を進めてまいります。
9	2040年にはEVTOLが運用されていると考えており、EVTOLの発着場を確保した整備計画を進めて頂きたい。	今後、利便性の向上に関する具体的な取組を検討してまいります。
10	山崎団地近くにモノレールの駅が出来ることにより、URは一部団地を広場や高層住宅にするとの計画です。モノレール駅の周辺は、自転車や駐車場などの広場も必要でしょうが、高層住宅の建設はやめて、立ち退きは最小限にしてほしい。理由はモノレールが通っても駅から遠く、家賃がさらに高くなると今までの人も住みにくくなるため。	UR都市機構は、町田山崎団地の建物の高経年化や居住者の高齢化等を受けて、2021年から団地再生に向けた勉強会を通じて、居住者との意見交換を行い、2024年3月には、居住者向けの説明会を開催しました。現在、具体的な取組を含めたまちづくりの調査・検討を進めています。
11	URは、モノレール構想と合わせて住民に説明会をしましたが、高層住宅が出来るから住み替えをお願いしますとのことで、住民の意見等は聞いていないようです。是非町田市には、住民の意見を積極的に聞いてURに要望してほしい。	今後、町田市は団地事業者や地元及び周辺自治会町内会等と協力し、まちづくりの検討をしてまいります。
12	買い物などが困難な交通弱者のため、現在市内で実験的に走っているグリーンスローモビリティを拡大し、また自転車専用通路を歩車道から分離して安全にした上で、電動補助自転車を安価で利用できるよう補助するなど、個人の自動車に頼らない交通のためのまちづくりも考慮すべきだ。	今後、利便性の向上に関する具体的な取組を検討してまいります。

モノレールに関するご意見

No.	ご意見の概要	市の考え方
13	<p>団地の将来に必要なものは、大量輸送のための大規模な鉄道ではなく日常生活に役立つ交通手段であり、その為には巨大な橋脚などが必要なモノレールより、より小規模で乗り降りしやすく、分岐なども作りやすいライトレールなど路面鉄道や、専用レーンと優先信号により高速化した BRT などのバスがより適する。</p>	<p>多摩都市モノレール町田方面延伸は、国土交通省の交通政策審議会が2016年にまとめた答申において、意義のあるプロジェクトと位置付けられました。これを受け、2021年に東京都の「多摩都市モノレール町田方面延伸ルート検討委員会」が</p>
14	<p>モノレールの運行予定ルートについて、市民病院から町田駅に直接行くのではなく、町田高校や芹ヶ谷公園を通して駅へと迂回したルートであり、移動時間が短縮されないため、市民病院から直接町田駅へ行くルートと、忠生から小山田桜台を通り、唐木田を結ぶルートで BRT (バス高速輸送システム) を導入することを提案する。</p>	<p>16kmの延伸基本ルートを選定しました。町田市は、東京都などととも選定されたルートを基本に、他のルート案も比較しながら、事業化に向けた検討を進めており、全線での早期開業を目指してまいります。</p>
15	<p>整備検討案が示されたものの一方向に前に進みません。この延伸は、市内の路線距離が長いため、早期に整備するためには、道路空間が整備され、また整備しやすい多摩センター～小山田緑地～小山田桜台～桜美林学園～忠生～木曾山崎～市民病院の間を先行整備し、部分開通することが賢明です。この町田市木曾山崎団地地区まちづくり構想の整備の実現は、早期のモノレール開通・木曾山崎駅開設が鍵であり、東京都等関係機関への町田市の働きかけを願いたい。</p>	